

重点目標	重点取組	分掌	具体的方策
1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実及びキャリア教育の推進	① 国指定事業の充実と白い森未来探究学の深化により、持続可能性の高いカリキュラムを開発する。	教務 キャリア課	○教科横断型授業の持ち方を充実させ、次年度以降につながる方針を確立させる。 ○白い森未来探究学での生徒一人ひとりの学びを深め、教科学習との関連を強める。
	② ICTを活用し、個別最適な学び・協働的な学び、教科等横断的な学習を実践することにより、本校生に育みたい資質・能力を伸ばす。		○生徒の学ぶ力(自学自習力)をつけるための教員の手立て・仕掛けを行い、学習の動機付けを行う。 ○各教科の学習の個性化、指導の個別化について探究し、実践する。
	③ 地域や企業・大学等と連携したキャリア教育や体験的教育活動を推進し、キャリア意識を醸成する。		○3年間を見通した「白い森人育成プログラム」に基づき、地域や企業と連携した学びの機会を設ける。 ○進路ノートを活用し、探究と進路の往還を図り、白い森未来探究学の更なる充実を目指す。
	④ 個々の進路希望の実現を目指し、面談等を通じて意欲的・計画的な学習態度を涵養する。		○面談や白い森学習支援センターとの連携を通じて、生徒の高い進路意識を涵養し、学習意識の向上を目指す。 ○朝学習等を通じて、生徒の学習習慣の定着を図る。
	⑤ 図書館等の活用により、高い教養と豊かな心の醸成を図る。		○朝学習時間に朝読書を取り入れ、読書の大切さ等を指導する。 ○校内読書感想文コンクール、読書会等の読書活動推進のための取組みを実施する。
2 生徒一人ひとりの発達指導の充実、社会的資質・能力を育む	① あいさつの励行や基本的生活習慣の確立に向けた援助・助言を行い、自律した社会人としての基礎固めを行う。	生徒 保健課	○生徒会執行部や生徒委員会(HR生活委員会)等が中心となり、生徒主体であいさつし合う活気ある雰囲気醸成を図る。 ○集会やホームルーム等、様々な場面でルール・マナーについて考えさせる。 ○保健室来室時には、生活習慣の振り返りを行う。 ○検診結果や来室状況を踏まえた保健指導を実施する。
	② 共感的な人間関係づくりや集団形成を支えることで、生徒一人ひとりが個性的な存在として尊重されるような学校の雰囲気をつくる。		○特別支援も含めて個に応じた対応ができるよう体制を維持する。 ○集会やホームルーム等、様々な場面で自己の価値を実感できるような活動を行う。
	③ 学校行事やボランティア活動等への主体的な取り組みを通して社会とのつながりを意識させ、生徒一人ひとりの自己有用感を醸成する。		○学校行事(クラスマッチ、小規模校サミット、学校祭)において、生徒主体での企画・運営を行い、生徒のやりたいが形になるよう、生徒に寄り添い、ともに試行錯誤して実施する。 ○ボランティア活動等の外部とのつながりを推奨し、生徒に活躍の機会を数多く紹介する。
	④ いじめのない学校を目指し、継続的にいじめ防止対策を徹底する。		○日々の生徒との対話の機会を大事にし、いじめの早期発見と対応を図る。(いじめグループ討議年1回、生徒アンケート年2回) ○保健講話や全校集会等、様々な場面で自他を大切にする心の醸成を図る。
	⑤ 地域と連携しながら放課後活動の充実を図る。		○地域サークルの紹介を行うとともに、生徒のニーズと地域の取り組みをつなげてより良い活動になるよう、町高校魅力化推進室や魅力化コーディネーターと連携を図る。 ○アルバイトや大会等に参加したい生徒に向けての体制を整える。
3 安心・安全かつ信頼される学校づくり	① コミュニティ・スクール運営やアフターコロナに合わせたPTA活動を実施し、学校・家庭・地域が一体となった活動を工夫して行う。	総務 広報課	○朝のあいさつ運動を実施し、生徒の健全育成に努めるとともに、会員同士の交流を図る。 ○専門部の活動を計画的に行い、生徒の学びの場づくりに参画する。 ○各種外部講演会の内容をさくら連絡網を通じて会員に還元する。
	② 特色ある教育活動や生徒の活躍を積極的に発信し、学校の魅力を伝える。		○OPTA会報「よこね」を発行する。 ○OCNと連携して、アスモや中学校の掲示板でも学校の取り組みを紹介する。 ○学校HP・SNSで生徒の活動を適宜紹介していく。
	③ 危機管理体制の維持及び施設設備の安全管理により事故防止に努める。		○防災意識を涵養するため、防災訓練(安否確認初動訓練・総合型避難訓練)を実施する。 ○危機管理マニュアルを改定するとともに、教職員が常時閲覧できるようにする。 ○月一回の安全点検を実施し、安全管理に努める。
4 教職員の協働体制の維持と指導力向上、心身の健康維持	① 各種研修を通し、同僚性を高めるとともに、「伴走者」としての教員の力量向上を図る。	学校 全体	○定期的に「白い森人」研修、特別支援教育研修、公開授業等を行うことで、資質の向上並びに職員の目線の一致を図る。 ○面談時だけでなく普段から研修に対する助言を行うとともに教育センター等の研修について声掛けを行う。 ○授業アンケート・授業評価・生徒の学習成果等により、指導と評価の一体化を図り、指導力の向上につなげる。
	② 業務改善を図り、ライフ・ワーク・バランスの向上に努める。		○学校や教員が担うべき業務とそうでない業務の仕分けを行うことで業務量の適正化を図る。 ○ICTの活用をさらに促進する。
	③ 休暇を取得しやすく、風通しのよい職場環境づくりを推進する。		○職員間のコミュニケーションの促進により、全職員による仕事の分業化(集中化を防ぐ)を目指す。 ○定時退校や休暇取得をしやすい雰囲気を作る。
	④ 教職員一人ひとりが働き方改革に対する意識を持ち、実行する。		○勤務時間を確実に掌握することで職員それぞれにあった業務遂行に対する助言を行う。 ○自分の勤務時間を認識するために出退勤時間の日常的なe教務への入力を促す。 ○日常的に定時退校の声掛けを行う。